

2022年5月期第2四半期 決算説明資料

2022年1月12日

 三協立山株式会社

業績結果

	2022/5期 2Q実績	2021/5期 2Q実績	前年同期比<参考>(*1)		2022/5期 2Q期初計画	計画比		2022/5期 通期 期初計画
			増減	%		増減	%	
売上高	1,650	1,450	+200	+13.8%	1,610	+40	+2.5%	3,200
営業利益	30	19	+10	+52.4%	24	+6	+26.5%	39
営業利益率	1.8%	1.4%		+0.4p	1.5%		+0.3p	1.2%
経常利益	27	23	+4	+17.2%	20	+7	+39.7%	31
親会社株主に帰属する 四半期純利益	9	7	+1	+23.3%	5	+4	+95.3%	4

(億円)

※金額は億円未満切り捨て表示、率は四捨五入表示
(*1)2022/5期より「収益認識に関する会計基準」等を適用、前年同期比は参考値として記載

✓ 前年同期比増収増益

✓ 売上高は全事業において増収 約200億円

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により停滞していた経済活動の回復が進んだことや、アルミ地金市況に連動する売上増加などにより増収。

✓ 営業利益は 約10億円増益

市場回復をうけた売上の増加を中心に、建材事業やマテリアル事業でのコスト削減、国際事業での利益改善により増益。

配当

1株当たり 中間配当 10円 期末配当 5円(予定)

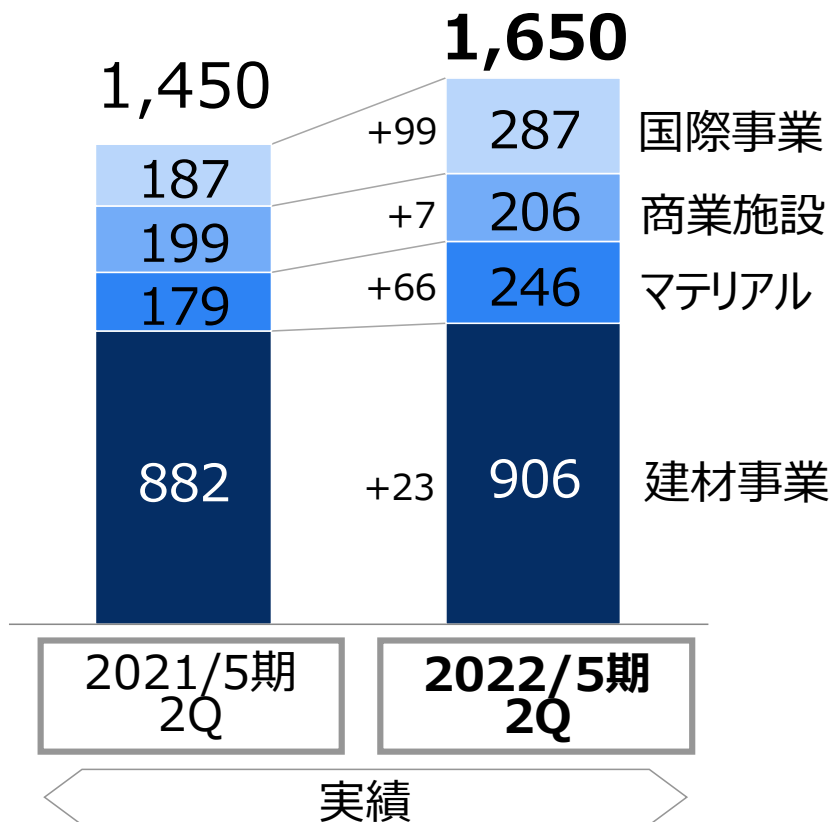
通期業績予想

足元の原材料価格および燃料価格の高騰や新型コロナウイルスの変異株による感染再拡大が懸念され、不透明感が残ることから、現時点においては前回予想から変更なし。

売上高

1,650 億円

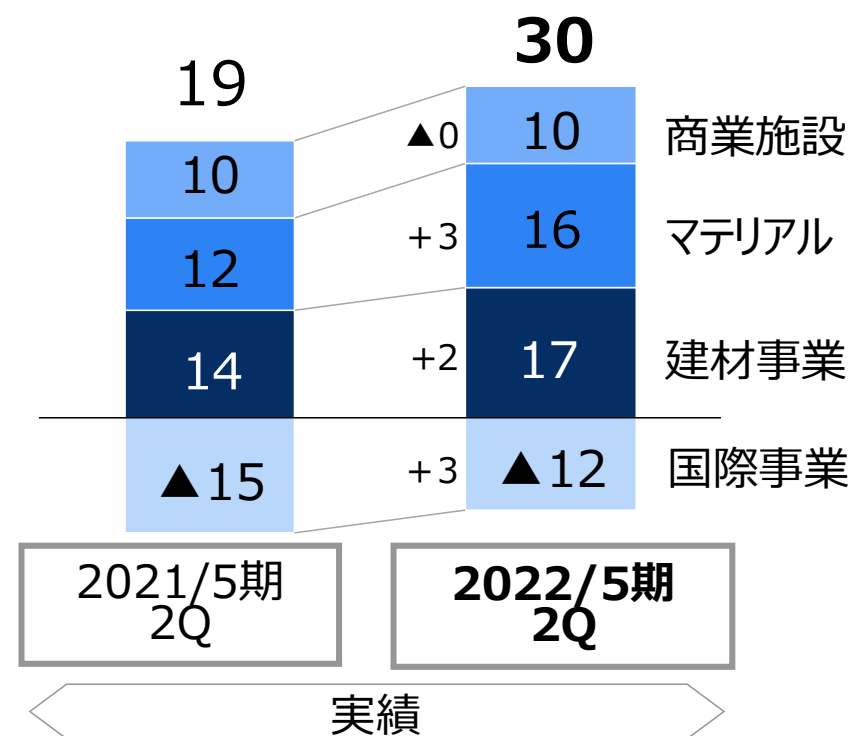
前年同期比 + 200 億円



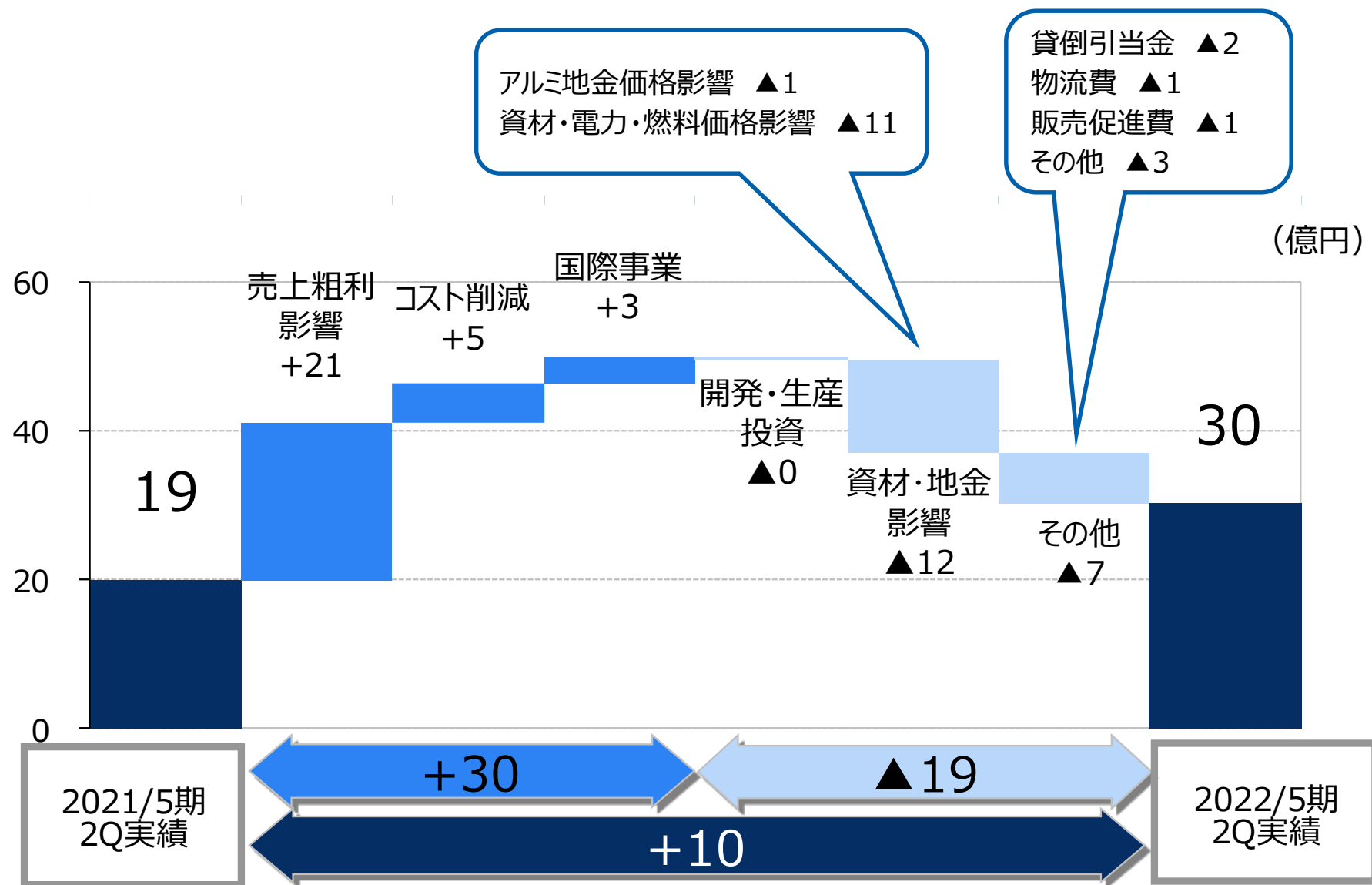
営業利益

30 億円

前年同期比 + 10 億円



※金額は億円未満切り捨て表示

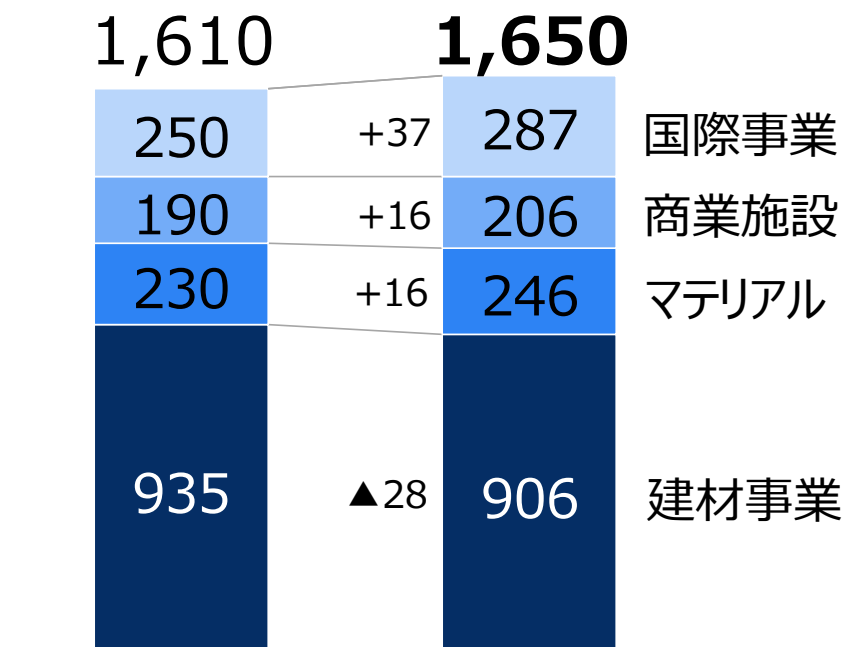


※国際事業に係る利益増減については、「国際事業」に集約
 ※金額は億円未満切り捨て表示

売上高

1,650 億円

計画比 +40 億円 (+2.5%)



2022/5期2Q

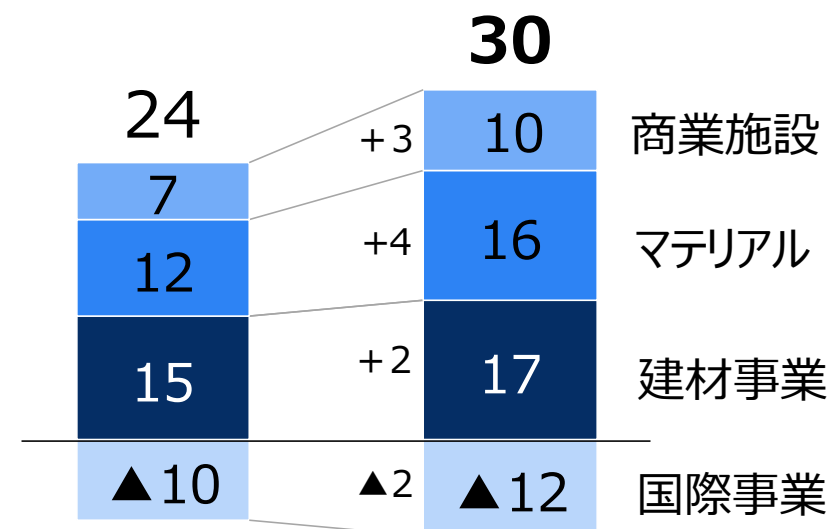
計画

実績

営業利益

30 億円

計画比 +6 億円 (+26.5%)

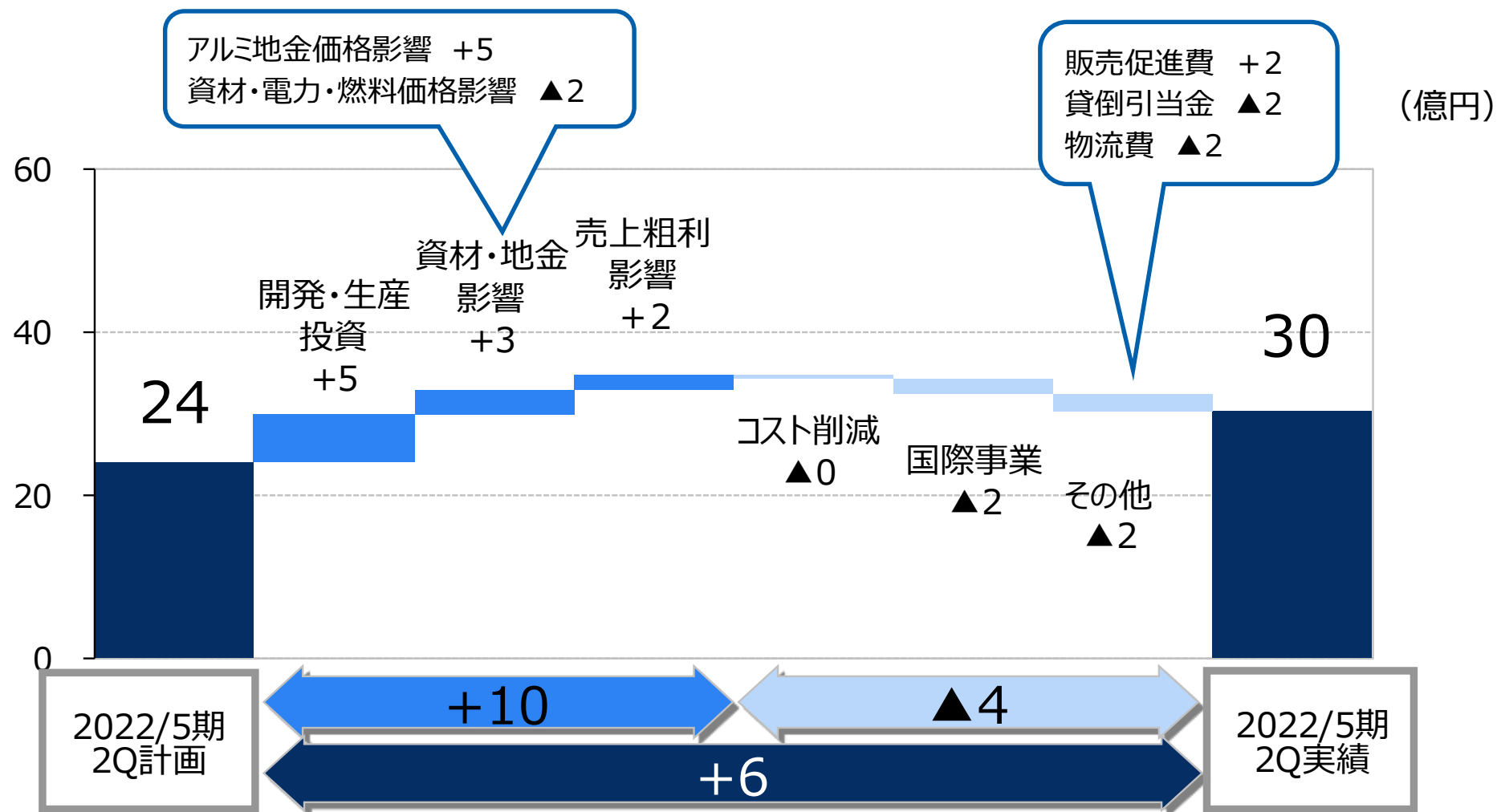


2022/5期2Q

計画

実績

※金額は億円未満切捨て表示



※国際事業に係る利益増減については、「国際事業」に集約
 ※金額は億円未満切捨て表示

国際事業改革について

■ 国際事業改革の見通し

◇ 2023年5月期⇒欧州子会社STEP-Gの構造改革による黒字化

◇ 2026年5月期⇒STEP-G黒字化+のれん償却完了によるセグメント黒字化

■ STEP-G営業利益推移

(億円)

	2021/5期 実績	2022/5期 計画	2023/5期 中期経営計画
STEP-G	▲ 27	▲ 15	1

■ STEP-G黒字化に向けた追加施策

固定費削減：ラーデンプルグ閉鎖 (*1)

⇒ 改善効果 約 1 億円 (2023年5月期)

(*1)ラーデンプルグ (Ladenburg, Germany)

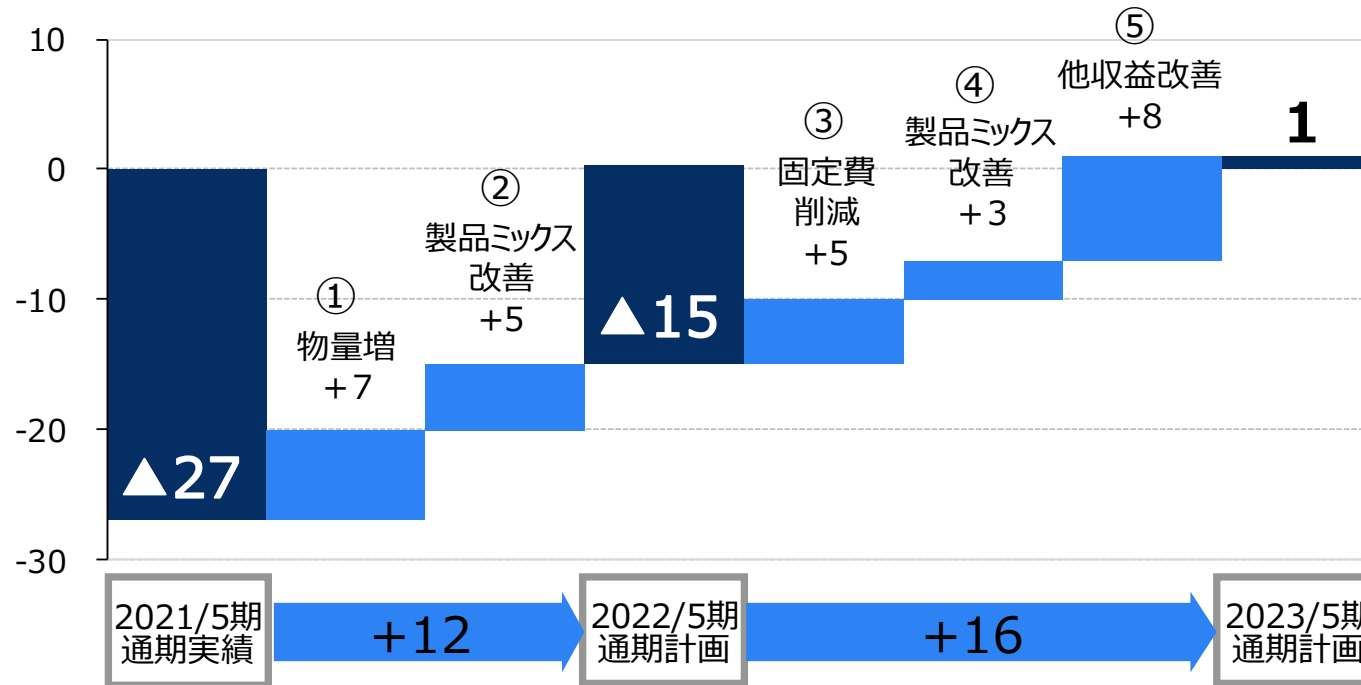
事業内容：主にアルミ製品の加工・販売



■ STEP-G黒字化に向けた施策と効果

<STEP-G営業利益増減要因>

(億円)
(127円/1ユ-ロ)



■ 2022年5月期 営業利益改善効果 約12億円

- ① 自動車分野での物量増加 ⇒ 改善効果 約7億円
- ② 製品ミックスの改善（高付加価値製品販売比率50%） ⇒ 改善効果 約5億円

■ 2023年5月期 営業利益改善効果 約16億円

- ③ 固定費削減（ボン鑄造ライン・ラーデンブルグ閉鎖他） ⇒ 改善効果 約5億円
- ④ 製品ミックスの改善（高付加価値製品販売比率60%） ⇒ 改善効果 約3億円
- ⑤ 他収益改善 ⇒ 改善効果 約8億円

ST Extruded Products Group (STEP-G)

2015年3月 米Aleris社より買収、三協立山グループに加わる

ドイツ(5工場)、ベルギー(1工場)、

中国(1工場)の計7工場

アルミビレット鋳造、型材押出、加工

従業員 約1,100名

売上高 約300億円 (2021年3月期)

Hettstedt: 鋳造



Bitterfeld: 押出



Duffel: 押出



Bonn: 鋳造、押出

(2022/5期

鋳造ライン閉鎖予定)

Vogt: 押出

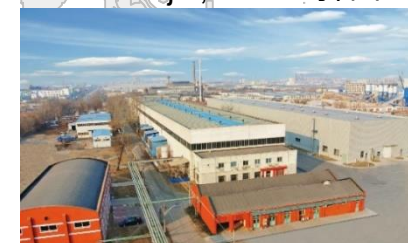


Ladenburg: 製品加工、販売

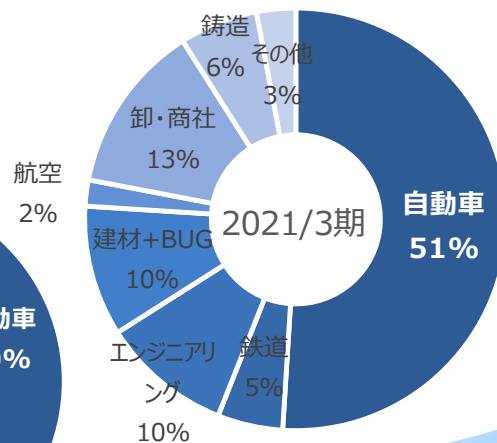
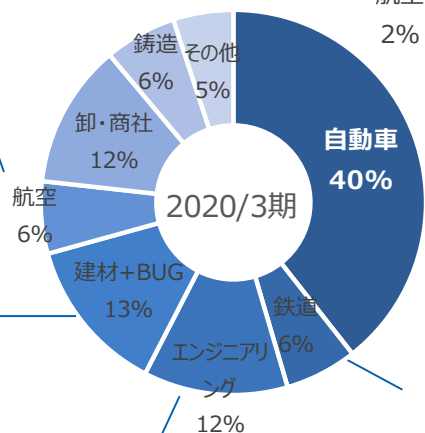
(2022/5期 閉鎖予定)



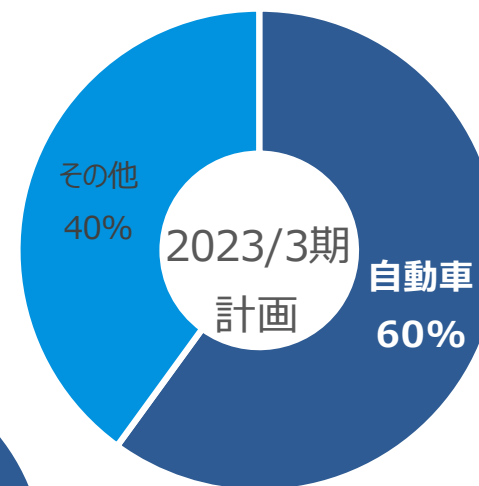
Tianjin, China: 押出



STEP-G 分野別販売重量推移



・車体床、壁、屋根



- ・ABS部材
- ・クラッシュボックス
- ・バンパーリインフォースメント
- ・EVバッテリーフレーム部材

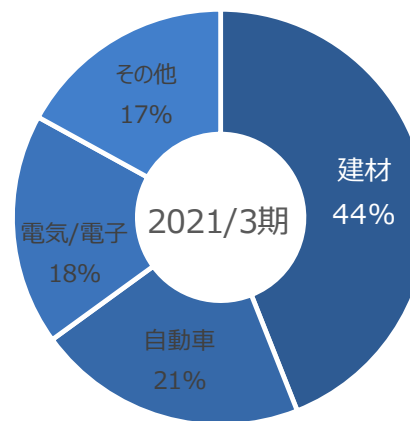




Sankyo Tateyama Alloy (Thailand)

2014年 設立
アルミレット鋳造
従業員 約50名
売上高 約10億円
(2021年3月期)

分野別販売重量構成



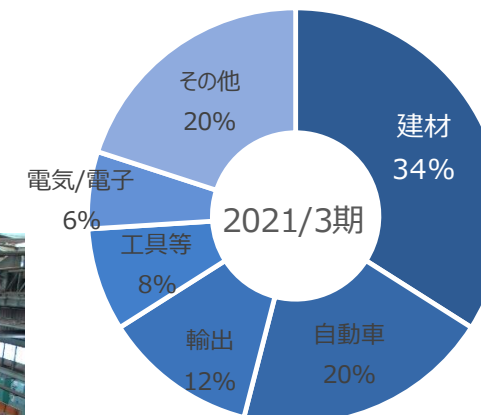
Thai-Aust Aluminium

2015年 子会社化
アルミ建材組立、加工
従業員 約250名
売上高 約10億円 (2021年3月期)

Thai Metal Aluminium

2015年 子会社化
アルミ形材押出、加工
従業員 約1,000名
売上高 約100億円
(2021年3月期)

分野別販売重量構成



トピックス



植物工場システム「agri-cube ID(アグリキューブ・アイディー)」初の導入企業が決定 株式会社Misumi様

「agri-cube ID」：植物工場の「建設」から「栽培・運営サポート」までワンストップサービスを提供する植物工場システム

・植物工場の概要

当植物工場は、大和ハウス工業株式会社様（以下、大和ハウス工業）が株式会社Misumi様（以下、Misumi）のミネラルウォーター工場として使われていた施設をリノベーションしたもので、既存施設を活用し、内装撤去や断熱パネル施工、栽培設備の設置などを進めることで、イニシャルコストを軽減した。

Misumiが植物工場の事業運営（野菜の生産・販売）、大和ハウス工業が野菜の販路サポート、三協立山が植物工場の栽培サポートを行う。



建設場所	鹿児島県始良市蒲生町白男 1406
延床面積	1,282 m ²
操業開始	2021年11月10日
投資額	5.1億円
雇員人数	15名（予定）
栽培品目	葉菜類（グリーンリーフ・フリルレタスなど）
栽培規模	3,200株/日（フリルレタス 200g/株 換算で 640kg/日）
年間売上高目標	1億8,000万円

今後も、当社は大和ハウス工業と協業で、企業様の新規事業創出提案、遊休不動産活用提案、自治体・農業生産法人の新たな農業事業創出提案等のご提案を行い、2026年度には年間5棟の植物工場「agri-cube ID」の導入を目指す。



サステナビリティビジョン2050、 2030目標、マテリアリティの公開 & TCFD提言賛同表明

サステナビリティビジョン2050

Life with Green Technology

～「環境技術でひろく、持続可能で豊かな暮らし」を実現する企業グループへ～

カーボンニュートラルへの挑戦

事業活動に伴う温室効果ガス排出削減と、環境技術で創出する商品・サービスによる温室効果ガス排出削減とのバランスにより、カーボンニュートラルを目指す。

資源の循環

循環型社会の実現に向けて、主要原材料の循環使用の促進と、廃棄物の再資源化を推進。

人財を未来へつなぐ

多様性や人権を尊重し人材育成を推進することで活力ある企業風土を創出し、豊かな暮らしを実現する原動力となる「人財」を未来につなぐ。

2030年 目標

温室効果ガス排出量

50%減

(2013年度比)
対象:国内グループScope1+2*

循環アルミの
使用を促進

女性管理職比率

10%

(2021年5月末 0.8%)



サステナビリティビジョン2050、2030年目標、当社グループのマテリアリティを、『三協立山 統合報告書2021』（2021年10月発行）にて公開



2021年12月、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)※1の提言に賛同を表明

今後は、TCFD提言に沿って、気候変動に関するリスクと機会が当社の事業活動、経営戦略、財務計画に与える影響について、必要なデータの収集と分析を行い、開示内容を充実させる。

これからも、さまざまな企業活動を通じて、サステナブルで豊かな暮らしに向けた社会づくりに貢献する。

※1 G20からの要請を受け、金融安定理事会（FSB）が2015年に設立した機関。気候変動によるリスク及び機会が経営に与える財務的影響を評価し、ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標について開示することを推奨している。



「サステナブルで豊かな暮らし」に向けた取り組み ～年間CO₂排出量約4,300トンを削減～

日本政府の2050年温室効果ガス排出ゼロ化方針を受け、CO₂排出量の削減に向けた2つの取り組みを実施

当社は2021年7月に発表した「VISION2030および中期経営計画」において、重点戦略の一つに、「サステナブルで豊かな暮らしに貢献～環境に配慮した、安心して快適な社会の実現へ～」を掲げました。持続可能な資材調達、環境配慮商品の開発、温室効果ガスの排出削減などの環境保全への取り組みを通じて、国連の持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)の達成に貢献することを目指しています。

①使用する電力をCO₂排出ゼロ 100%再生エネルギー化

- ◆対象：三協立山本社、各カンパニー全国支店・事業所・営業所（三協アルミ社・三協マテリアル社・タテヤマアドバンス社）、社員寮
※工場および、連結子会社は含まれません
- ◆運用時期：2021年12月1日（水）
- ◆CO₂排出削減量：年間 約3,660トン（当社2013年度排出量約24.7万トンに対する削減率 約1.5%）

②バッテリー式フォークリフトへ移行

- ◆対象：三協アルミ社 6工場、三協マテリアル社 5工場
※フォークリフト（3トン以下）107台
- ◆移行期間：2021年10月～2025年10月
- ◆CO₂排出削減量：年間 約640トン（当社2013年度排出量約24.7万トンに対する削減率 約0.3%）
※バッテリー式フォークリフト充電時に発生するCO₂排出量を差し引いたCO₂削減量

3 すべての人に 健康と福祉を	9 産業と技術革新の 基盤をつくらう	12 つくる責任 つかう責任

「2021年度グッドデザイン賞」を受賞 ドアハンドル「ロングバーハンドル角型」／ 通路シェルター「ファイブフォート」



(主催：公益財団法人日本デザイン振興会)



✓ ドアハンドル「ロングバーハンドル角型」

子どもから大人まで、どこを持ってでも操作が可能なユニバーサル性の高いロングバーハンドルで、開閉力の軽減にも配慮しました。トレンドに合わせたスクエアなデザインでありながら、操作部は丸くやさしい手触りに仕上げました。

評価ポイント

標準的なプッシュプルハンドルの動作を再検証し、ハンドル形状自体のノイズレスだけでなく、外ハンドルをドアの戸先に寄せるレイアウト上のノイズレスを実現している。玄関ドアに設置されたときの構成要素の一部として玄関全体を俯瞰した視点で再考している点を評価しました。

✓ 通路シェルター「ファイブフォート」



リサイクル性の高いアルミ構造で、スチール構造に匹敵する業界最大級の柱ピッチ5000mmと屋根張り出し量1800mmを可能にした通路シェルターです。シンプルなフラット基調の屋根デザインと多彩な納まりバリエーションにより、どんな場所にでも寄り添います。

評価ポイント

技術的な蓄積や設計上の配慮により、強度など求められる条件を守りながら、かつてないシンプルな外観を実現していることが評価できる。柱間のピッチを大きくして本数を減らし、中棧は無くしていること、部品やねじの露出をさけ、縦樋も内蔵するなど、シンプルな外観の追求が徹底している。スチール製の従来製品に比較して環境と調和しやすく、リサイクル性や耐食性の面で優位であることも好ましい特徴となっている。

参考資料

3 すべての人に 健康と福祉を	9 産業と技術革新の 基盤をつくらう	12 つくる責任 つかう責任

✓ 玄関用収納網戸

6～11月 累計売上
前々年比**128%**



「アコーディオン網戸」
「てまノン網戸」

既存の玄関ドアや引戸に取り付けて風を採り入れる。「てまノン網戸」は丸洗いができるのでいつもキレイ。

✓ 宅配ボックス

6～11月累計売上
前々年比**172%**



「フレムス/
フレムスLight」

不在時でも在宅中でも配達員と接触せずに宅配便を受け取り可能。

✓ テラス囲い

6～11月 累計売上
前々年比**111%**



「晴れもようwith」

「風の流れ」をデザインし、より楽しくより快適なランドリースタイルを提案。

✓ ガーデンルーム

6～11月累計売上
前々年比**124%**



「ハッピーナリラ」

日中からナイトシーンまで快適なリラックス空間を。

✓ 自然換気システム

2021年10月
強化・リファイン



「キャブコン」

風の流れをコントロールするスリット。強風を受けやすい高層のビル・集合住宅にも取り付けられ、防火地域・準防火地域でも使用可能。

✓ インテリア建材

6～11月累計売上
前々年比**116%**



「AMiS」

在宅でのリモート空間を確保する可動パーテーション。

	対象期間	2019年	2020年	2021年
【建材事業（住宅）指標】 新設住宅着工戸数	4月-9月	46.7万戸 (5.0%減)	41.4万戸 (11.4%減)	44.6万戸 (7.7%増)
新設住宅着工戸数 [持家]	4月-9月	15.3万戸 (4.4%増)	13.1万戸 (14.2%減)	14.9万戸 (13.3%増)
新設住宅着工戸数 [貸家]	4月-9月	17.5万戸 (15.7%減)	15.6万戸 (11.0%減)	17.0万戸 (8.9%増)
【建材事業（ビル）指標】 非木造建築物着工床面積	4月-9月	37.8百万㎡ (3.9%減)	33.7百万㎡ (10.7%減)	34.2百万㎡ (1.6%増)
【マテリアル事業指標】 アルミ形材押出重量[サッシ・ドア除く]	6月-11月	17.9万 t (0.3%減)	15.8万 t (12.0%減)	16.6万 t (5.5%増)
【商業施設事業指標】 建築着工棟数[店舗(民間建築主)]	4月-9月	3,573棟 (10.1%減)	2,523棟 (29.4%減)	2,791棟 (10.6%増)
【国際事業指標】 ドイツ自動車生産台数	4月-9月	230.9万台 (8.0%減)	137.4万台 (40.5%減)	137.5万台 (0.0%増)
タイ自動車生産台数	4月-9月	101.1万台 (5.0%減)	50.9万台 (49.6%減)	74.6万台 (46.4%増)
【アルミ地金価格平均値】 [日本経済新聞より]	6月-11月	244.0円/kg (16.0%減)	233.6円/kg (4.2%減)	363.6円/kg (55.7%増)

() は前期比

※金額は億円未満切り捨て表示

売上高

	3か月実績				実績累計 (億円)			
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)		'21/5期	'22/5期	増減(*1)	
1Q	410	421	+11	+2.7%				
2Q	472	484	+12	+2.5%	882	906	+24	+2.7%
3Q	435				1,318			
4Q	488				1,806			
					'22/5期通期計画		1,880	

- ・住宅ローン減税駆け込み需要寄与による建築着工の復調が続いたこと
- ・リフォーム需要が堅調に推移したこと
- ・イエナカ生活、換気、非接触対応商品の販売増加など

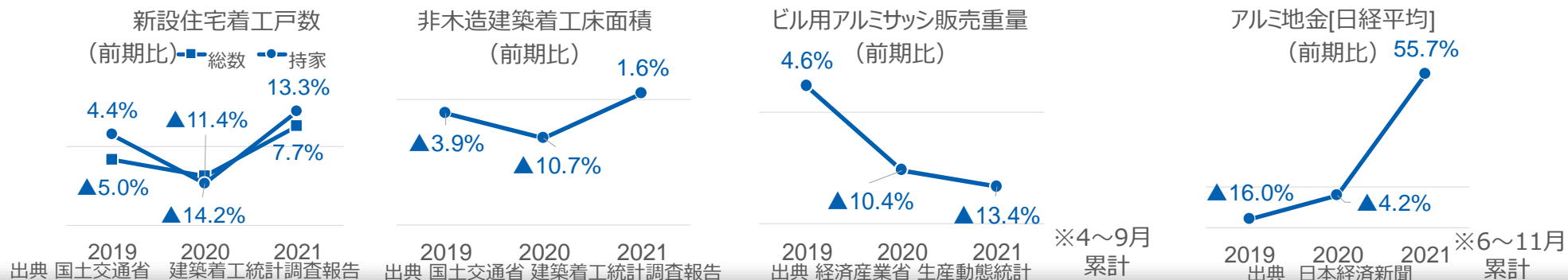
セグメント利益

	3か月実績				実績累計 (億円)			
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)		'21/5期	'22/5期	増減(*1)	
1Q	▲0	4	+4	-				
2Q	14	12	▲2	▲14.3%	14	17	+3	+21.4%
3Q	4				18			
4Q	18				37			
					'22/5期通期計画		24	

- ・資材価格の値上がりによる材料費の上昇影響があったものの、収益改善施策を進めたことや、売上の増加および操業度の上昇など

(*1)2022/5期より「収益認識に関する会計基準」等を適用、増減額、増減率は参考値として記載

事業環境



※金額は億円未満切り捨て表示

売上高

	3か月実績				実績累計			
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)		'21/5期	'22/5期	増減(*1)	
1Q	78	119	+41	+52.6%				
2Q	100	126	+26	+26.0%	179	246	+67	+37.4%
3Q	102				282			
4Q	114				396			
					'22/5期通期計画		475	

- ・半導体製造装置向けの設備投資の好況に伴う好調な受注
- ・アルミ地金市況に連動する売上増加など

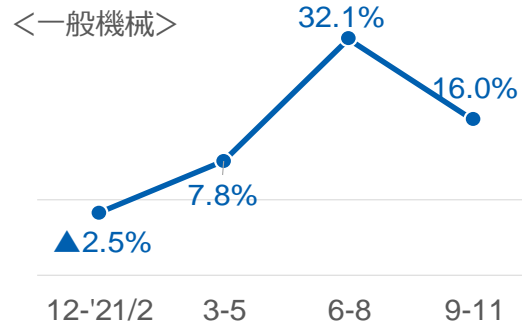
セグメント利益

	3か月実績				実績累計			
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)		'21/5期	'22/5期	増減(*1)	
1Q	2	10	+8	+400.0%				
2Q	10	5	▲5	▲50.0%	12	16	+4	+33.3%
3Q	8				20			
4Q	5				25			
					'22/5期通期計画		22	

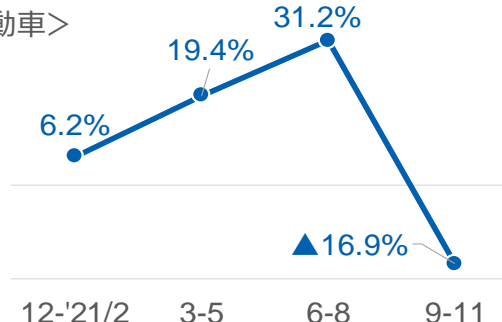
- ・売上の増加や、操業度の上昇など

(*1)2022/5期より「収益認識に関する会計基準」等を適用、増減額、増減率は参考値として記載

国内アルミ型材押出重量 (前年同期比)



<自動車>



出典 日本アルミニウム協会統計

事業環境

※金額は億円未満切り捨て表示

売上高

	3か月実績				実績累計			
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)		'21/5期	'22/5期	増減(*1)	
1Q	85	95	+10	+11.8%				
2Q	114	111	▲3	▲2.6%	199	206	+7	+3.5%
3Q	86				286			
4Q	102				388			
						'22/5期通期計画	375	

- ・店舗建築着工が回復基調であること
- ・積極的に投資を行っている流通小売業を中心に、既存店改装需要を取り込んだことなど

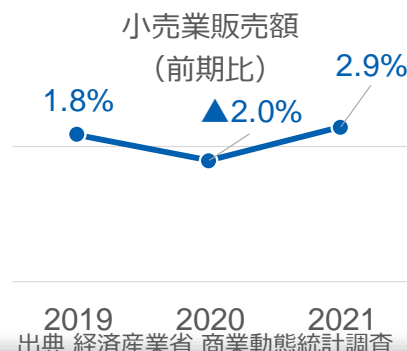
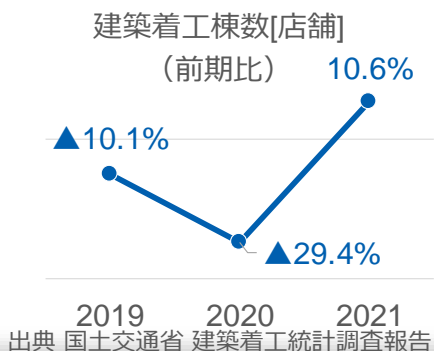
セグメント利益

	3か月実績				実績累計			
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)		'21/5期	'22/5期	増減(*1)	
1Q	2	3	+1	+50.0%				
2Q	8	6	▲2	▲25.0%	10	10	+0	+0.0%
3Q	3				14			
4Q	6				20			
						'22/5期通期計画	9	

- ・業務効率化による販管費抑制を進めた
が、鋼材価格の値上がりによる材料費
上昇影響など

(*1)2022/5期より「収益認識に関する会計基準」等を適用、増減額、増減率は参考値として記載

事業環境



※金額は億円未満切り捨て表示

売上高

	3か月実績			実績累計 (億円)				
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)	'21/5期	'22/5期	増減(*1)		
1Q	89	144	+55	+61.8%				
2Q	98	143	+45	+45.9%	187	287	+100	+53.5%
3Q	102				290			
4Q	127				418			
					'22/5期通期計画	455		

- ・欧州では半導体不足を背景に自動車市場は低調に推移したものの電気自動車需要が高まったこと
- ・タイでは自動車市場の回復による物量増加
- ・アルミ地金市況に連動する売上の増加

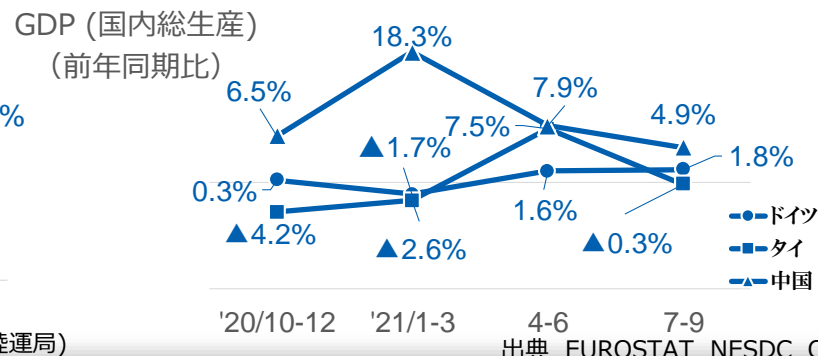
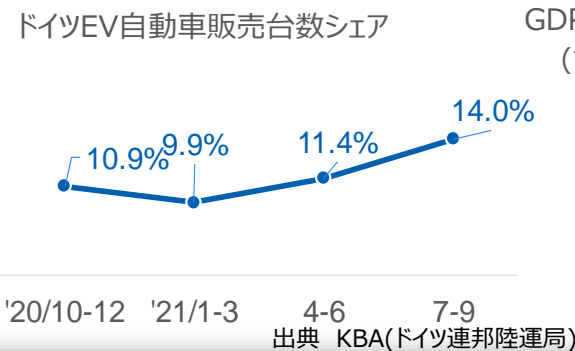
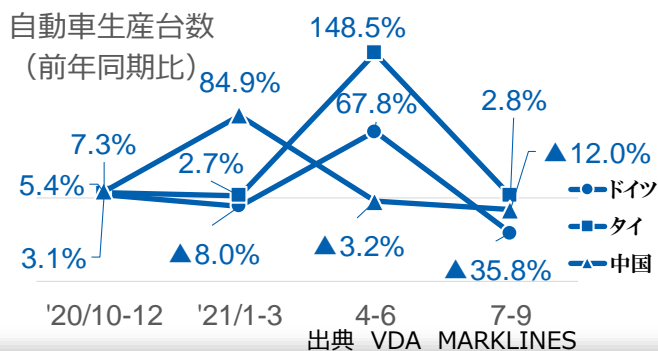
セグメント利益

	3か月実績			実績累計 (億円)				
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)	'21/5期	'22/5期	増減(*1)		
1Q	▲6	▲4	+2	-				
2Q	▲9	▲8	+1	-	▲15	▲12	+3	-
3Q	▲9				▲25			
4Q	▲10				▲35			
					'22/5期通期計画	▲17		

- ・売上の増加や、販売構成の改善など

(*1)2022/5期より「収益認識に関する会計基準」等を適用、増減額、増減率は参考値として記載

事業環境



貸借対照表

2021/5期

2022/5期2Q

(億円)

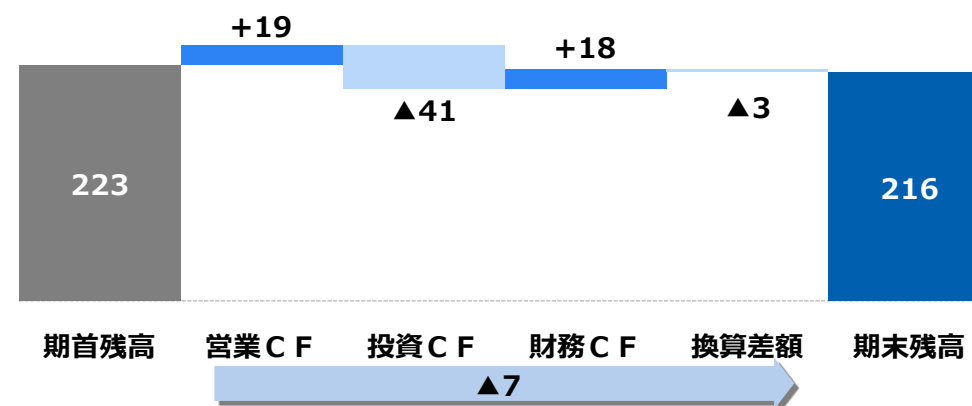
流動資産 1,268	流動負債 1,072	流動資産 1,400	流動負債 1,177
固定資産 1,260	固定負債 615	固定資産 1,263	固定負債 651
	純資産 840		純資産 834

	2021/5期 期末	2022/5期 2Q期末	前期末比
総資産	2,529	2,663	134
自己資本	813	805	▲ 7
自己資本比率	32.1%	30.2%	-1.9pt
有利子負債	690	716	25
有利子負債比率	84.9%	88.9%	4pt

※ 金額は億円未満切捨て表示、率は四捨五入表示
 ※ 自己資本 : 純資産 - 非支配株主持分
 自己資本比率 : 自己資本 / 総資産
 有利子負債 : 短期借入金 + 長期借入金 + 社債
 有利子負債比率 : 有利子負債額 / 自己資本

キャッシュ・フロー

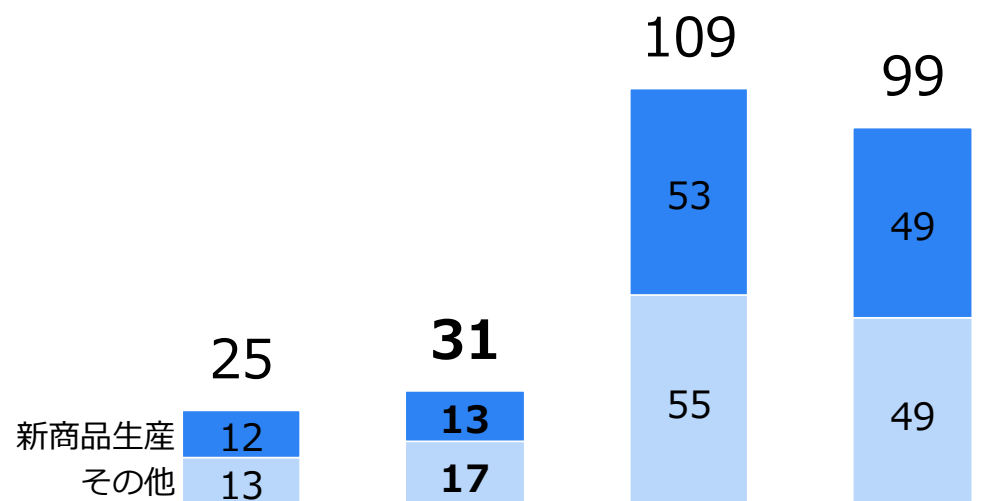
(億円)



営業CF	19	投資CF	▲ 41	財務CF	18
税金等調整前 当期純利益	26	有形固定資産の 取得による支出	▲39	短期借入金純増減 (▲は減少)	▲26
減価償却費	37	その他	▲1	長期借入れによる 収入	132
売上債権の増減 (▲は増加)	▲75			長期借入金の 返済による支出	▲79
たな卸資産の増減 (▲は増加)	▲64			配当金の支払額	▲4
仕入債務の増減 (▲は減少)	96			その他	▲3
法人税等の支払額	▲12				
その他	10				

※金額は億円未満切り捨て表示

(億円)



《内訳》

		2021/5期 2Q実績	2022/5期 2Q実績	2022/5期 計画	2022/5期 見直し計画	2021/5期 実績
・ 新 生 商 産 品	新商品・合理化	5	6	24	23	11
	修繕など	6	7	29	26	12
そ の 他	ソフトウェア	3	2	8	8	8
	海外子会社	7	12	40	32	36
	その他	2	3	6	9	7
合計		25	31	109	99	76
減価償却費		38	37	84	82	80

※金額は億円未満切捨て表示

【 連結および持分法の適用範囲 】 (社)

	2021/5期 期末	2022/5期 2Q期末	前期末比
連結子会社	47	47	0
持分法適用会社	7	7	0
合計	54	54	0

【 人員の状況（正社員） 】 (名)

	2021/5期 期末	2022/5期 2Q期末	前期末比
三協立山	5,138	5,037	▲ 101
連結子会社	5,439	5,321	▲ 118
合計	10,577	10,358	▲ 219

【 計画前提・実績 】

		期中 平均値	2021/5期 2Q実績	2022/5期 前提（通期）	2022/5期 2Q実績
アルミ地金価格 (日本経済新聞)		6~11月	233.6円/kg	325.0円/kg	363.6円/kg
為替	ドル	4~9月	106.9円	110.0円	109.8円
	ユーロ	4~9月	121.3円	127.0円	130.9円
	バーツ	4~9月	3.4円	3.5円	3.4円
	元	4~9月	15.3円	16.3円	17.0円

サステナビリティビジョン2050 Life with Green Technology

～「環境技術でひろく、持続可能で豊かな暮らし」を実現する企業グループへ～

カーボンニュートラルへの挑戦
事業活動に伴う温室効果ガス排出削減と、
環境技術で創出する商品・サービスによる
温室効果ガス排出削減とのバランスにより、
カーボンニュートラルを目指す。

資源の循環
循環型社会の実現に向けて、
主要原材料の循環使用の促進と、
廃棄物の再資源化を推進。

人財を未来へつなぐ
多様性や人権を尊重し人材育成を推進することで
活力ある企業風土を創出し、
豊かな暮らしを実現する原動力となる「人財」を
未来につなぐ。

マテリアリティ（重要課題）

2030年を目標年として選定したマテリアリティ（重要課題）は下表の10課題

ESG	マテリアリティ	強化施策
G	1. コーポレートガバナンス	・内部統制 ・内部監査 ・品質管理・PL ・サステナビリティ推進 ・ステークホルダーエンゲージメント
	2. はたらきやすい職場環境づくり	・社員の意見を吸い上げる仕組みづくり
S	3. 健康と安全	・健康安全な職場環境の整備
	4. 多様性と人材育成	・創造性に富む人材の確保・育成 ・シニア人材の活躍 ・女性社員の活躍
E	5. 気候変動への対応	・温室効果ガスの削減 ・削減貢献
	6. 資源の有効活用	・アルミの資源循環 ・樹脂の資源循環 ・廃棄物削減
		7. 公正な取引、汚職防止
S	8. サプライチェーンマネジメント	・調達方針の策定および見直し ・サプライチェーンにおける汚職防止慣行奨励 ・サプライチェーンにおけるグリーン調達、CSR調達の推進
S	9. お客様満足の追求	・お客様のCSR方針・要望に応える商品・サービスの提供 ・取引先との協業による品質向上
	10. 製品の安全確保	・有害化学物資の管理と削減

2030年目標

女性管理職比率 10%

温室効果ガス排出量
2013年度比で50%削減
対象：国内グループScope 1+2

循環アルミの使用を促進

E 環境

S 社会

G ガバナンス

【本資料に関する注意事項】

本資料に記載されている内容には、三協立山株式会社及び連結子会社（以下、総称して「三協立山グループ」という）の計画、戦略、業績などの将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、現時点で入手可能な情報から得られた三協立山グループの仮定や判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、三協立山グループの実際の業績、事業活動、財務状況は、これらの見通しと大きく異なる場合があります。また、新たな情報、将来の事象、その他にかかわらず、三協立山グループが将来の見通しに関する記述を見直すとは限りません。なお、業績など実際の結果に影響を与えるリスク、不確実性及びその他の要因としては、三協立山グループの事業領域を取り巻く経済情勢、三協立山グループの製品やサービスの需要動向の変化や価格競争の激化、為替相場、アルミ地金等の価格変動が挙げられますが、これらに限られるものではありません。

本資料の複製・転載はお断りします。